

堺市と民間企業が昨年4月に開設した育児支援施設「キッズサポートセンターさかい」(堺市堺区)が、大阪大の連合小児発達学研究所と連携し、発達障害を抱える乳幼児を早期の療育につなげる試みに取り組んでいる。臨床心理士や小児科の専門医が、施設で遊ぶ子どもの様子を見守って特徴を把握し、親子で子育て法を伝授するユニークな方法だ。「医療機関を受診するより気軽に相談できる」と、親たちからも好評だ。(増田弘治)

堺市の施設と阪大

こだわりの強かったり、人付き合いが苦手だったりする特徴がある発達障害では、子どもの特徴を把握したうえで幼いうちから訓練を重ねると、集団生活になじみやすくなると思われる。

だが、自分の子どもとほかの子の違いに気づきながらも、小児精神科などの医療機

発達障害 療育へ連携



来所した母親と子どもの発達について情報交換する臨床心理士(右から2人目)(堺市のキッズサポートセンターさかいで)

くらし健康・医療

遊ぶ乳幼児見守り 特徴把握

関を訪れることをためらう親は多い。堺市と阪大は、遊具やおもちゃを備えた同センター

「なら不安を抱えた親の抵抗感を減らしながら、診断や療育に結びつけることができる」と考えた。

センターには月曜から金曜まで臨床心理士が常駐し、阪大病院の小児科専門医2人が週2回来所する。専門の医療機関は予約から初診まで数か月待つことも珍しくないが、センターでは臨床心理士らへの相談後平均33日で、あまり待たずに阪大の医師の診察が受けられるのが強みだ。

5月までに0歳～小学生までの66人を受け入れ、47人が医師の診察を受けた。うち42人が発達を促す訓練や支援が必要と判断され、センターと連携する公立や民間の医療機関、親が対象の勉強会の紹介を受けた。

堺市の母親(35)は、三男(3)が1歳半の健診で言葉の

遅れを指摘されたが「病院などの相談には事務的な印象があり、敷居が高かった」と明かす。センターの雰囲気は期待して訪れると、その日に臨床心理士に相談でき、すぐに発達検査や保健師による日常的な支援の仲介を得られた。

母親は「遊びに行けば、専門家が様子を見てくれる程度かと思っていたが、あっという間に支援を受けられる状態になり驚いた」と話す。臨床心理士に相談したことであせりやイライラが減り、余裕を持って三男に接することができるようになったという。

臨床心理士による相談は堺市以外の住民からも受け入れられる。問い合わせは、キッズサポートセンターさかい(072・2338・2050)。

「くらし健康・医療」は日